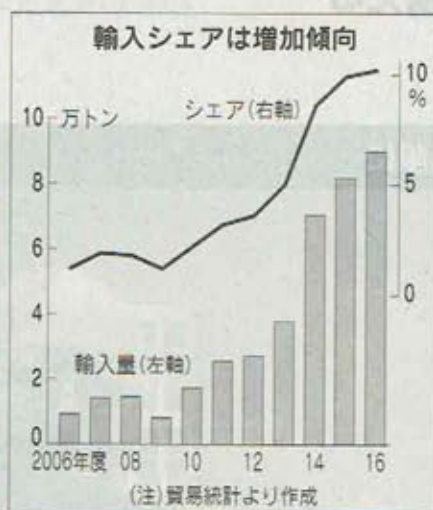


スペイン産豚肉、輸入増

5年で3.5倍 差額関税制度を活用



スペイン産豚肉のうち「イベリコ」と呼ばれる加工用向け部位の卸価格は1キログラムあたり640円前後。人件費が安いこともあり、競合する感を高めている。

「イベリコ」人気契機

豚肉市場でスペイン産の輸入が増加している。需要喚起を目指した高級食材のイベリコ豚の取り扱いを契機に、認知度が向上。差額関税制度を活用した白豚と呼ばれる比較的割安な豚肉の需要も拡大し、2016年度の輸入シェアは10%と過去最高となった。低価格を背景に国内市場を巡り他国産との競合が続く、ハムやソーセージの原料コストの低減につながりそうだ。



スペイン産豚肉のうち高級品のイベリコ豚の知名度が高いが、商社などによると、輸入の9割超はイベリコ豚ではなく割安な白豚とみられる。輸入業者は単価が高い肉

スペイン産豚肉では高級品のイベリコ豚の知名度が高いが、商社などによると、輸入の9割超はイベリコ豚ではなく割安な白豚とみられる。輸入業者は単価が高い肉

欧州の銘柄豚として知名度が高まってきたスペイン産イベリコ豚

を、関税の減額に活用。輸入拡大につながっている。例えばイベリコ豚の中でも高級なベジヨータと呼ばれる肉は同3200円前後。割安な部位との価格差が大きいほど、両者を抱き合わせる「コンビネーション輸入」という方法で単価を引き上げやすく、関税の支払いを

▼豚肉の差額関税制度
輸入単価に応じて、国が定めた基準輸入価格との差額を課税する制度。部分肉の輸入価格が1キログラムあたり64・53・524円の場合、基準輸入価格(同546・53円)との差額が524円になる。524円を

貿易統計によると、16年度のスペイン産豚肉の輸入量は前年度比10%増

減らすことができる。大手食肉卸の担当者は「高単価なイベリコ豚のおかげで割安な白豚の輸入が容易になる」と打ち明ける。

超えると4・3%の従価税が課される。割安な海外産の豚肉の極端な増加を防ぐ目的がある。1キログラムあたり524円の場合、最も関税負担が軽くなる。価格の高い肉と低い肉を組み合わせ、単価が524円に近づくと調整

国内でBSE(牛海綿状脳症)の感染が確認され、牛肉の売れ行き鈍化が背景にある。

の8万9700ト。5年間で3・5倍に拡大。3%だった輸入シェアも10%にまで高まった。スペイン産豚肉が広がったのは01年以降。

整することが多い。例えば1キログラム400円の豚肉だけだと差額関税が適用され、課税額は単純計算で146・53円になる。一方、700円の豚肉も入れ平均550円にすれば、定率課税で関税は23・66円と大きく減少する。

国内の豚肉生産が落ち込んでいる。特にイベリコ豚は脂の口溶けがよく、脂に甘みがあるのが特徴。イベリコ豚を使った食材を販売するタイシコーポレーション(大阪市)の山本真三代表は「人気は高く、今ではすっかり定番化した」と話す。

03年に米国でBSEが発生した後は商社で輸入食肉の調達先を多様化し、リスクを分散する動きが拡大。14年に豚が死ぬなどする豚流行性下痢(PED)が広がり、国内の豚肉生産が落ち込んでいる。

景にある。特にイベリコ豚は脂の口溶けがよく、脂に甘みがあるのが特徴。イベリコ豚を使った食材を販売するタイシコーポレーション(大阪市)の山本真三代表は「人気は高く、今ではすっかり定番化した」と話す。

肉卸)との指摘が

割安なスペイン産との価格競争が高まり、ハムやソーセージの原料コストの低減につながるとの指摘が

んだことも輸入につながった。スペイン産の豚肉やデンマークは、国やデンマークは、出連合会のフィリピンを落とした。米国のセンク会長は「スペイン豚の評判がスペイン肉全体の需要の後因になっている」と話す。